

別府 多久哉

ベップ
タクヤ

平成21年に学生を主体として、岡山ではじめて行われた「社会起業支援サミット」。
その実行委員として大活躍した工学部通信ネットワーク工学科2年生の別府多久哉さんを紹介します。

「イベントを通じて、世界が広がった」

「社会起業」(ソーシャルビジネス)とは、地域や社会に存在するさまざまな課題を、ビジネス的手法を用いて解決していくことです。ボランティアは無償であるため、どうしても継続性に欠けるくらいがあります。社会的課題を解決することを仕事とし、ビジネスとして成立させ

ることで活動に継続性を持たせ、さらに地域経済の活性化にも寄与できるという点に特徴があります。岡山ではインターネットを通じて、県産の果物を販売するなどで地産地消を推進している「漂流岡山」やリユースカップを貸し出すなどエコイベントを通じて環境保護を訴えているNPO法人「タブラ・ラサ」などが有名です。
昨年7月に本学を会場として

開催した「社会起業支援サミット in 岡山」は、社会起業家から実際にどんなことをしているかや起業の動機などを直接聞くことで、社会起業活動に興味を持つのもらうことを目的としました。イベントでは、子どもたちに夢を与え、晴れの国・岡山が子どもたちの笑顔でいっぱいになることを願って、プロサッカーチームを立ち上げたフアジャーノ岡山スポーツクラブの木村代表や、総社市に受け継がれた文化を、「吉備野ブランド」として確立させることで地域活性化を目指すNPO法人「吉備野工房ちみち」加藤理事長といった錚々たる方々にご講演いただきました。資金がなかったら、いかにお金をかけず済ませるかという点で苦心しましたし、宣伝不足のため、参加希望者が思うように集まらなかったり、といったさまざまな苦労がありました。したが、幸いにも当日は100名を越える方々にご参加いただき、好評を博しました。



「岡山になければ、作ってしまえばいい」

私としても、ふだん聞くことのできない貴重な話を聞けて、「こんな生き方もあるんだ」と勉強になりましたし、同じ実行委員として、社会人と関わることがとても楽しかったですね。じつは、私がこのイベントの開催を知ったのは、インターネットのSNSサイト・ミクシィ「岡山大学コミュニティ」で募集の告知を見たからです。当時、「社会起業」とはなにかよく知らず、単に響きだけで実行委員に応募したのですが(笑)、新しい世界に出会えて、今では参加して良かったと心から思っています。

「社会起業支援サミット in 岡山」を今年も開催するかどうかは未定なのですが、学生が主体となつて、このような社会起業について知るイベントを岡山で開催したいと考えています。そ

考えています。そ



のため、岡山県が主催した「ソーシャルビジネス講座」の運営に関わるなど、社会起業という考えを他の学生にも広げる活動を行っています。

社会起業に関するイベントなどは、やはり首都圏で開催されることが多く、一時は関東の大学院に進もうかと思ったこともありますが、ある時、「岡山になければ、作ってしまえばいいんだ」ということに気づいたんです。今では、岡山に残って、現在学んでいるIT技術を活かして、地域を活性化させる仕事に就きたいと考えています。